

平成30年5月15日発行

RIKKO SEKAI No.1078 力行世界 平成30年5月15日発行 (1)

2018年

5月号

年4回発行(1. 4. 7. 10月号)

No.1078

(学法)日本力行会

RIKKO SEKAI No.1078 力行世界

R I K K O S E K A I



「会館生スキー旅行」(宿泊先「ベルデ軽井沢」にて記念写真)

創立1897年1月1日



目次

スキー旅行.....	2・3	ウェルカムパーティー.....	10
学童だより.....	4・5	ブラジル研修生記事.....	11
りっこう幼稚園だより.....	6・7	力行だより.....	12
マイグレーション研究会 発表会紹介.....	8・9		



会館生スキー旅行



去る3月10～11日に、会館生とともに恒例の軽井沢1泊スキー旅行に行っていました。この度は、会館生のニーズを活かし、一日目と二日目の二日間に渡るスキーを行いました。

バス移動中は、映画上映会になりますが、今回は朝からホラー企画、タイトル『IT』を上映し、阿鼻叫喚の様相を呈しておりました。映画上映が好評につき、2本目の映画を見終わる頃には、練馬区保養所の「ベルデ軽井沢」に到着し、昼をとって間もなくスキー

場に向かいました。南米から来た会館生は「初めて雪を見た」と大変感動しておりました。インストラクターに指導され、夕方には直滑降のハイスピードで駆け抜けていた日本財団奨学生の石田君が、敢え無く左手をひどく骨折してしまいましたが、病院の処置を受け、事なきを得ました。職員もこのところ毎年骨折する憂き目にあいましたが、残念なことに今回は彼が名誉の負傷を負いました。

2日目は、彼はゆっくりとゲレンデ

の景色を楽しんでおりました。「利き手ではなくてまだ私は幸せだ。これからたくさん読書ができる。」コロンビアが培ったあくまで明るくポジティブな姿勢に心を打たれ、帰りの便で『ラ・ランド』を上映し甘酸っぱい人生の妙味を共有し、今年のスキー旅行は終わりました。

以下に、りっこう幼稚園研修生の数本理恵さんの感想文を掲載しております。そちらもあわせてお読み下されば幸いです。



初めてのスキー旅行

平成30年度 ブラジル幼児教育研修生 数本利恵

3月10日、私は初めてのスキーに力行の皆さんと行きました。

バスに乗り約2時間後、旅館の「ベルデ軽井沢」にておいしいカレーを食べ、すぐにアサマ2000スキー場へ向かいました。スキー場の景色は真っ白な山が沢山あってとても綺麗でした。初めてのスキーでしたので、最初はインストラクターと一緒に少しづつ慣れるまで滑って行きました。数分がたち、もう一人でなんとか滑れるようになった後は時間があっという間にたつてしまい一日目のスキーの時間が終わりました。

旅館での晩御飯はとても美味しく、

沢山のごちそうをいただきました。部屋では以前あまり話さなかった人たちと話せるようになったり、新しい友達もできました。

二日目のスキーでは、初級コースはなんとか滑れるようになっていました。何回かころんだりもしたけれども、顔にあたる風がとても気持ち良く、友達と何回も滑って楽しく一日を過ごすことができました。

力行会館の皆さんで行ったスキー旅行はとても楽しかったです。特にまた新しい友達ができたことがとても良かったと思っています。ぜひまた機会があれば行きたいと思います。

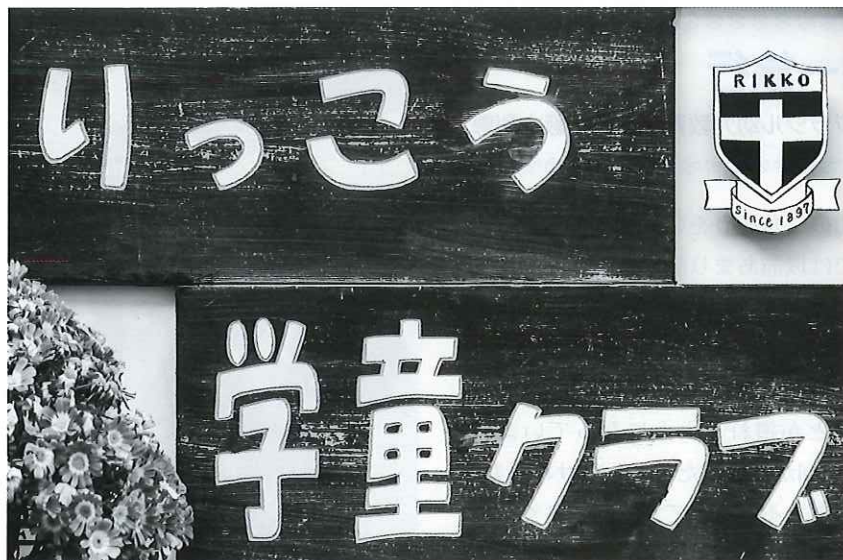


警告

「滑り過ぎ」には
注意しましょう!

(石田談)





日本力行会の新しい事業として学童クラブ事業（放課後児童健全育成事業）を平成30年4月1日から開始しました。広々としたクラブ室の中で1年生から3年生までの子どもたちが過ごしています。スタッフは常勤職員1人と、学童クラブの経験豊富な非常勤職員6人体制で始動しました。近隣にある練馬区立小竹小学校の学区域内で唯一の学童クラブになるので、大半の子どもたちは小竹小学校から通い、りっこう学童クラブでの楽しい生活を送っています。

今後は、地域との関わりを深めながら、子どもたちが笑顔でより安心して過ごせるような環境を整えていきたいと思っています。

◆不安から楽しみに

りっこう学童クラブを開設した初日の4月2日は、自己紹介を兼ねたお楽しみ会を開きました。学童クラブ初日は、入学式・始業式がまだ行われていない春休みの真っ只中。1年生は異なった保育園・幼稚園から来ているのでお互いの顔も名前も分かりません。部屋に入ってきて周りの様子を見ながら個々で遊んでいました。全員が揃ったところで子どもたちを集め「これからみんなで楽しみ会をします！」と声をかけると、不安でいっぱいに見えた子どもたちの顔がほんの

少し嬉しそうな表情に変化していました。お楽しみ会では、お互いの顔と名前を覚えながら楽しむことを目的とし、2人で挨拶をして名前と好きな食べ物などを言い合うゲームや、チームを決めてみんなで協力するゲームなどをして楽しみました。お楽しみ会が盛り上がり、お弁当を

食べる頃には「一緒に食べよう！」「隣に座ろう！」など、子どもたち同士の素敵な会話が聞こえてきました。



◆お弁当にも対応

学校が休みの期間中は基本的には保護者の方に作ってもらったお弁当を食べますが、近くにあるお弁当屋さんをお願いをして子ども用の特別なお弁当を作ってもらうこともできます。そのことが働いている保護者のお弁当作りの負担を少しでも減らすことに繋がればと思っています。

でいます。男子は「レゴブロック」や「サッカーゲーム」、女子は「ぬりえ」や「人生ゲーム」が人気の遊びです。また、みんなで折り紙を使っているいろんな折り方を披露し合っている様子も見られ、子どもたち同士の心の距離が近くなったように感じました。



◆地下ホールでの遊び

室内での遊びも楽しんでいますが、やはり子どもたちは体を動かすことが大好きな様子で、時には近隣の公園にみんなで行って走り回って遊んでいます。また、りっこう幼稚園が前園舎の際に、チャペルとして使われていた地下ホールは雨の日でも体を動かせるスペースです。これは、他の学童クラブではなかなか経験できないりっこう学童クラブの特色の1つとなっています。その中で子どもたちは、ボールや大縄を使って遊びを楽しんでいます。また2月には、1年間ボール投げの練習をした成果を保護者の方に披露する「親子ドッジボール大会」を企画しています。

◆学童クラブの生活に慣れる

4月も後半になり、1年生も給食が始まりました。子どもたちは、家から学校に行き、学童クラブに帰って来る生活に慣れてきたように感じます。学童クラブに帰って来ると、まず宿題に取り組み、その後は自由遊びを楽しん

今後、ドッジボール大会に向けて遊びを通して運動に接する機会を増やしていけたらと考えています。



◆新聞ファッションショー

自由遊びの時間を使ってみんなで制作を行うこともあります。第1回目は、新聞紙を使ってファッションショーを行いました。グループに分かれ、モデルを1人決め、モデルに洋服や小物を新聞紙やガムテープなどを使って作り上げ、それを着せてみんなに披露するものです。子どもたちはグループの中で「どんな洋服にする?」「帽子も作った方がいいんじゃない?」などとみんなで相談してから制作に取りかかる姿は大人顔負けで、2年生、3年生は、小学生のお兄さん、お姉さんらしい姿を見ることができました。



◆「子どもの森」で盛り上がる

4月20日には小竹小学校が開校記念日でお休みだったため、朝から羽沢にある練馬区立の公園「子どもの森」に出かけました。良いお天気に恵まれた中、ロープでできたブランコや木登りなどで楽しみました。午後になると気温も上がり、それからはバケツやひしゃくを使った水のかけあいもして盛り上がりました。着ている洋服が濡れ、泥で汚れるまで笑顔で遊びました。出かける前は「服汚したくないなあ」と言っていた子どもたちも気が付くと夢中になって水遊びを楽しんでいました。普段は部屋の中で遊んでいる子どもたちにとって、暖かい日差しを浴びながら体を動かし、自然に囲まれて元気に遊ぶことはとても良い経験になったと思います。



りっこう幼稚園だより

音楽会

すみれ組 楠家早織

2月9日に礼拝堂で音楽会を行いました。3学年がそれぞれ今の発達段階に合った楽器を使った演奏と歌を歌いました。

3学期に入るとゆりぐみは“きらき星変奏曲”でやってみたい楽器を決めるところから始まりました。決まると、パートごとに集まり練習を行いました。各楽器の音を感じながら、リズムが変わる場面で練習を重ねてできるようになる充実感を味わいながら日々を重ねていました。

すみれぐみはピアノか木琴を選び“かえるの合唱”の練習が始まりました。音階1音1音押さえる難しさがありましたが、朝の練習を繰り返していくことで自信に繋がった姿が見られました。打楽器のカスタネットと鈴を使

い“さんぽ”の演奏にも挑戦しました。楽器ごとにリズムが異なり合わせる難しさと面白さを体験していました。

ももぐみはカスタネットで様々なリズム打ちを表現して鳴らす楽しさをクラスの友だちと味わいながら活動しました。

音楽会当日は保護者の方も来てくださいました。始まるとあつという間で、舞台にあがる1人ひとりが思い思いに



表現を楽しむひとときとなりました。

演奏が終わると子どもたちはほっとした表情も見られました。保護者の方からはたくさんの鳴り止まないたくさんの拍手をもらい笑顔になり、友だちと喜びあう姿も見られました。

後日、事後活動として3学年で音楽会で行った事を見せ合いました。みんな“アンコール”をしったり知っている曲は一緒に歌い、みんなで楽しいひとときを過ごしました。

これからも友だちと楽器を演奏すること・歌う楽しさを楽しんでいけるように願っています。



卒園式

ゆり組 寺田麻理

3月20日、卒園児であるゆり組107名全員出席で、無事卒園式を行いました。先生たちが一つ一つ作ったお花のコサージュを胸につけ、おうちの方、お祝いに来てくださった来賓の方々、年中クラスのすみれ組の待つ礼拝堂へ1組から4組まで順に入場し、卒園式が始まります。尾山牧師がこれからも神さまが側で見守って下さるようにとお祈りをして下さり、礼拝堂が心地よい静けさに包まれていきます。

担任の先生から一人ずつ名前を呼ばれ、壇上に上がり園長先生から卒園証書をいただきます。背筋を伸ばし、堂々と前を見て歩く姿に子ども達一人ひと

りの大きな成長を感じました。歌「さよならばつちのようちえん」を卒園児が歌う表情は生き生きと輝いており、力強い歌声に会場は引き込まれていきました。すみれ組からはお祝いの言葉と子ども達で歌詞を考えた歌「みんな友達」が贈られました。歌詞には「力を合わせた運動会、かっこよかったよ くるみクッキー美味しかったよ コマ回しかっこよかった ゆり組さんみんな大好き」と温かい気持ちが込められており、ゆり組の子ども達も幼稚園での思い出を振り返りながら緊張していた表情がほっと笑顔になる時間を持つことができました。

ゆり組からはすみれ組に「幼稚園を

よろしくね、ずっと友達だよ」とメッセージを贈り、おうちの方へは「はじめの一步」の歌とともに、3年間側で見守ってくれたことへの感謝のメッセージを贈りました。雨の日も送り迎えをして下さったこと、毎日おいしいお弁当を作って下さったこと、沢山の方々に愛されてこんなに大きくなったこと。会場は感動の涙に包まれました。

大切な子ども達がこれからも神さまに守られ成長していくことを心よりお祈りしています。



入園式

もも組 松尾涼子

4月10日、澄みわたる青空の下、ピロティでは八重桜が美しく咲き誇る中入園式が行われ、134名の新入園児を迎えました。

ピカピカの園服に身を包み、ちょっぴり不安そうな子、緊張気味な子、満面の笑みを浮かべる子…新入園児1人ひとりが新しく始まる幼稚園生活にそれぞれの想いを抱きながらおうちの方

と一緒に幼稚園の門をくぐりました。

クラスで先生やお友だちと元気に「おはようございます!」とあいさつをし、あつまりをした後はおうちの方と手をつないで礼拝堂へ。おうちの方や来賓のお客様、ゆりぐみさんに見守られながら入園式が始まりました。お祝いの言葉を頂いたり、先生のアトラクションに歓声をあげ

たり、ゆりぐみさんからの言葉と歌を聞いたり…温かい歓迎を受け、幼稚園に入園した喜びをご家族で味わえるひとときになったのではないかと思います。

新しく始まった幼稚園生活、まだまだ不安な気持ちも大きいと思いますが少しずつ園に慣れ、好きなことや安心できる場所を見つけて過ごせるよう見守っていきたいです。また、たくさんの人と出会い、お友だちと一緒に遊んだり様々な経験を重ねながら充実した3年間を過ごせるよう一人ひとりに寄り添っていきたいです。



はじめのいっぽ

PTA 会長 仁藤昭江

4月10日爽やかな春の日差しの中、待ちに待ったもも組さんが入園してきました。

入園間もない頃、不安げな表情をしていたもも組さんが、一か月がたつころには中庭で元気いっばいに遊んでいる姿や自分で園服を着ている姿をみて、子供の成長の早さに驚かされました。

りっこう幼稚園では、春・夏・秋・冬と季節を感じられる行事があり、園内では子供たちがのびのびと元気よく遊んでいます。また、幼児期に必要な身体を動かす事や、五感をフル活用したりすることでたくさんの経験を積み重ねられる環境を、園長先生をはじめ、先生方がとても熱心に取り組んで下さっています。

先日朝から大雨の日がありました。

親は朝から雨に打たれながら必死に子供を登園させます。大人はそれだけでもグッタリですが、子供たちはそんな親の気分をよそに、元気よく遊びまわって元気よくお歌も歌っていました。子供たちの笑顔、元気な声を聞くとどんよりとしていた気分も少し晴れやかになりました。雨だから遊べないのではなく、雨でも遊べる幼稚園は、流石りっこう幼稚園だと思いました。

きっと、私がPTA活動をして幼稚園にいれば感じられなかった事だと思います。

りっこう幼稚園では、保護者の方々にご参加いただいているPTA活動があります。保護者の方々の環境は様々ではありますが、活動を通して園の保育や園児と関わりを持ち、また、保護

者のコミュニケーションの場となるよう望んでいます。多少なりともご負担に感じる事もあるかと思いますが、子供たちは、4月から新しい環境の中『はじめのいっぽ』を歩き出しています。

もも組さんは、不安や緊張の中、はたまた期待に満ちた『はじめのいっぽ』。

すみれ組さんは、初めてお兄さんお姉さんになる『はじめのいっぽ』。

ゆり組さんは、幼稚園の年長さんになる期待と不安の中での『はじめのいっぽ』。

子供たちは、どんな時でも着実に一歩一歩前に進んでいます。

保護者の皆さまにも、お子様たちのようにぜひ、『はじめのいっぽ』を踏み出していただきたいです。そして、活動を通して出会えた縁を大切に、幼稚園で過ごした時間が親子のかけがえのない大切な宝物になりますように。

今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

「マイグレーション研究会 2018年3月例会」

— 当会所蔵書籍及び資料をテーマに、日本力行会を会場に開催される —

わが国を代表する「日本移民学会」の有志メンバーにより、主に移民・移住に関する調査や研究を推進し、研修者間の成果発表や関連する施設を訪問研究をする事を目的として結成された「マイグレーション研究会」（会長・坂口満 京都女子大学教授）の2018年3月例会が、会場を当日本力行会研修室及び資料・書籍所蔵書庫にて開催され、開催中20名余りの会員達が一堂に会し、当会の沿革や所蔵する資料を熱心に関覧、懇親会においては会員同士の意見交換を行うなど、有意義な成果と大盛況の内に無事終了した。

同研究会の坂口会長と当会との関係は既に30年余りのお付き合いがあり、当初、当会保有の会誌「力行世界」の複製のためマイクロフィルム化を実施、その完成品は同志社大学に現在も保管され、多くの研究者に利用されている。また、その後も、坂口会長のご支援により、当会資料はアメリカ・ロサンゼルスのリトルトーキョーにある「全米日系人博物館」が中心となり調査とりまとめられた主に南北アメリカを中心とした日系人の歴史や実態を紹介する書籍及び資料集の刊行においても多くの当会資料が完成に貢献、以降、多くの研究者が当会資料の閲覧及び利用するきっかけとなり、現在に至っている。

今回、坂口教授より、以前からは、当会の歴史及び所蔵書籍と資料についての現状について関係研究者にご紹介頂きたいとのご要望があり、当会としても全面協力することとなり、今回の例会開催実現に至った。

今回の例会は二日間にわたり開催され、初日はまず、参加者への当力行会歴史紹介ビデオの鑑賞をしていただき、保有する書籍や資料の整理保存の過程や現状について、当会事務局課長及び日本移民学会メンバーの田中より

概略説明を行った後、現在も整理段階で有り、間もなく一般公表予定である故・永田泉理事長寄贈の「永田コレクション」についての内容と整理方法と現状について、同資料整理をお願いしている立教大学大学院生の名村優子さんよりご説明頂いた後、参加者全員で同コレクションの保管されている書庫にて資料を閲覧見学、その後は各自、書庫資料及び一部公開された「永田コレクション」資料を自由閲覧タイムとなるが、参加者より余りに珍しい一次資料の豊富さと保存状態の良さ、更には貴重資料との出会いに、まずはどうめきと、まるで獲物を仕留めた獣の様な参加者の一心不乱の閲覧状態となり、皆さんから、「力行会の資料は素晴らしい、是非これからもっと活用させて頂きたい」との大絶賛のお褒めの言葉を頂き、当会としても大変光栄な事、これからも多くの研究者や関係者の方々にお越し頂き、活用され、多くの論文や書籍が発行され、彼の地の日系社会の理解と活性化の一躍となればと思った。なお一日目例会終了後に、場所を池袋のブラジル・シュラスコ料理屋「トゥッカーノ池袋」店に移しての懇親会では、参加者の自己紹介と研究テーマについて語り合い、しばしブラジル料理に舌鼓を打ちながら参加者同士の懇親を大いに深めることができた。

例会二日目は、在日ブラジル人1世の武蔵大学教授・アンジェロ・イシ教授による「トランスナショナルなブラジル（日系）移民の最新事情」と言うテーマでの講演会を実施、内容は三部構成で「リーマンショック後の再入国ビザ問題」「高度人材と在外ブラジル人」「日系4世ビザの抱える問題」をテーマに詳しく解説、分析、現状報告がなされた。特に、リーマン・ショックの際、当時30万人いたという在日

ブラジル人の多くが帰国奨励金をもらうことで帰国し、当時報道で3年後には再度日本へ入国できるという情報の決定的内容伝達と言葉の誤解から多くの弊害を生んだにも拘わらず、当時実施されたアンケート調査では、大多数の帰国した日系ブラジル人達が「仕方がなかった」「日本に迷惑をかけたくなかった」と、日本に対する悪い印象が限りなくなかった報告がなされたことに、参加者より異論が続出するも、やはり古くからの日本の伝統文化を継承するグループに属するブラジルの日系社会では、家庭内では祖父母より「他人に迷惑をかけてはいけない」という事を実生活から学んでいたことからの自然の解答とみるべき、反面本国ブラジルの政治不信からさらにその解答は助長されているとみるのが自然である、と言う見解が南米移住研究者の共通する意見、フィールドのちがう研究者同士の認識の差を垣間見る事のできる大変貴重な体験ではなからうか。さらに、第二テーマの「在外ブラジル人」については、在日ブラジル人だけでは理解しきれない、世界規模でのブラジル人の移住・移動について、歴史と動向について分析すると共に、各地で発行されているポルトガル語の雑誌や報道などについても紹介、いずれも在日ブラジル人の歴史と世界規模のブラジル人の移動が本国ブラジルでの政治的、経済的変化により起因していることを理解できる素晴らしい報告であった。また、アンジェロ教授より、在日ブラジル人を他国在住ブラジル人の視点より捉えた場合、特に正規に認められたビザでの入国であることが大変うらやましく思われており、高度人材での技術関連ビザを保有しない在留は、不法滞在者、つまり「オーバーステイ」という不安定地位での生活を強いられる（主に、アメリカやイギリス滞

在者) ことからうかがい知ることができよう。

講演会終了後の意見交換も大変活発なものとなり、多少認識が違う意見であっても、なぜその「違い」が有るのかを多くの参加研究者の分析やアプローチから、一同も納得できる見解に結びつくなど、今回の例会が、創立

121周年以来の「人づくりと多文化共生」を基本理念とする当会で実施されたことは誠に意義深い事であったと、多くの参加者より感謝のお言葉を頂いた。

今回の「マイグレーション研究会」の当会例会実施にあたり、多くの関係者皆様のご支援を賜ったことを深く感

謝し、特に日頃よりお世話になっている坂口研究会会長のご提案とこのような素晴らしい機会を与えて頂いたことを心より感謝申し上げ、これを機会に多くの研究者や関係者が当会に集い、資料閲覧ほか等にご活用頂ければ切に望む次第です。

(文責・田中直樹)

〔日本力行会で開催されたマイグレーション研究会3月例会〕

マイグレーション研究会とは、京都・大阪を拠点とし、多様な人々の移動の歴史と文化について語り合う団体で、例年3月には各地の移民関連施設や資料館を訪問し、学習する企画を実施している。2018年3月には、日本の移民史を語るうえで欠かすことのできない日本力行会をお借りし、例会を開催させていただくこととした。

1日目の3月3日(土)は、「日本力行会の歴史と所蔵資料について学ぶ」をテーマとし、まずは同会の110年の歩みをふりかえるビデオを鑑賞した後、田中直樹さんから書庫に保管されている貴重な図書や写真のアルバム、雑誌について説明をうけた。

ついで名村優子さんに目下整理が進められている「永田稠文書」について詳細に解説してもらった。参加者たちは、4600点に及ぶ資料の宝庫を目の前にして、興奮を抑えきれず、次々と貴重な資料を手にとり、写真に収めていた。

研究会後は池袋で懇親会を開き、シュラスコやブラジルの伝統料理を楽しんだ。初日の参加者は17名であった。

翌3月4日(日)は、アンジェロ・イシさんをゲストスピーカーにお招きし、日系人離職者に対する「帰国支援事業」の諸問題ならびに在外ブラジル移民の活動に関する比較考察について話題提供してもらった。参加者からは、

ブラジル国内の労働状況や税制度の問題についても考えるべきではないか、グローバル化するブラジル移民の中で日本の事例をどのように位置づけるのか、フィリピンや香港から来日し就労している人たちの意識の差をどう考えるのかなど、活発に質問が出され、充実した意見交流がなされた。参加者は全日程で20名であった。

最後になりましたが、例会会場の提供ならびに貴重な資料の閲覧に便宜をはかっていただいた日本力行会には心よりお礼申し上げます。

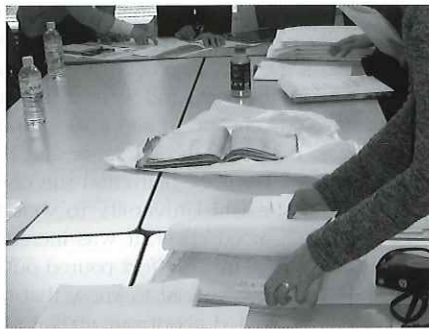
マイグレーション研究会会長 坂口満宏
(京都女子大学文学部史学科教授)



ブラジル料理屋にて懇親会



アンジェロ教授講演会



永田コレクション閲覧



資料を熱心に見る研究者達



永田コレクション書庫見学



マイグレーション研究会

ウェルカムパーティー

平成 30 年 4 月 26 日

2018 年 春 期 も 新 た な 会 館 生 が 力 行 会 館 に や っ て き ま し た 。 日 本 に 来 て か ら の 新 生 活 に 不 安 な 新 入 会 館 生 の 皆 さ ん に と っ て も 、 楽 し い 友 達 作 り の 良 い 機 会 に な っ て 頂 け る こ と を 祈 っ て 企 画 し ま し た 。

今 回 は 、 こ れ ま で と は 一 味 違 っ た 催 し 物 を 実 施 し ま し た 。 な ん と 、 力 行 会 の 地 下 ホ ー ル の 壇 上 で 、 武 蔵 大 学 応 援 団 の 皆 様 に 応 援 の 演 舞 を 行 っ て 頂 き ま

し た 。 き っ か け は 、 力 行 会 の 日 本 語 講 師 を 務 め て 頂 い て い る 大 矢 昇 治 様 に お 願 い し 、 所 属 さ れ て い る 武 蔵 大 学 応 援 団 と 、 チ ア リ ー ダ ー の 皆 さ ん に お 話 し て 頂 い た こ と で す 。

日 本 式 の 応 援 団 か ら 醸 し 出 さ れ る 硬 派 な 気 迫 と チ ア リ ー デ ィ ン グ の 華 や か さ に 、 会 館 生 は 驚 き と 感 激 の 眼 差 し で 見 入 っ て お り ま し た 。 チ ア リ ー デ ィ ン グ の 演 舞 は 天 井 ま で 届 き そ う な ほ ど の

高 さ で し た 。 応 援 歌 は 、 体 に 響 く よ う な 大 太 鼓 の 鳴 り 音 に 合 わ せ 場 内 に 響 き 渡 り 、 一 同 大 変 感 動 し ま し た 。 応 援 団 の 皆 様 に は 大 変 感 謝 し て お り ま す 。

会 館 生 は 、 最 高 の 盛 り 上 が り の 中 、 大 変 に 喜 ん で お り ま し た 。 力 行 会 は 、 会 館 生 の 日 本 で の 生 活 を バ ッ ク ア ッ プ し 、 共 生 社 会 の 礎 づ くり を 果 た す よ う 努 め て 参 り ま す 。

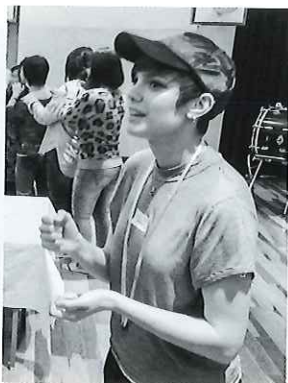
(事務局)

Nippon Rikko Kaikan
Erynn Hope Stauffer (武蔵大学、アメリカ)

When I first arrived in Japan, I was anxious about my living situation. I didn't know quite what to expect, but after being here for a few weeks, I'm extremely relieved that I decided to reside within Rikko Kaikan. The dorm creates a warm, comfortable atmosphere and the staff inside help to create an intimate community of students from around the world to experience Japan together.

Yamamoto-san's orientation for the dorm was very understandable, leaving little to no questions about that the expectations are while residing at Rikko Kaikan. He provided times for anything that required a time restraint, and every contact that was available within the dorm. The orientation itself wasn't long (incase if people may be unable to concentrate for a long period of time), and was very well delivered by Yamamoto-san. I'm confident that any question regarding rules, expectations, available contact information, and what Rikko Kaikan has to offer was answered in full detail and explanation.

The welcome party was incredibly generous and kind, provided by Rikko Kaikan. They had plenty of food and refreshments, with people from the community to welcome us to the area. Rikko Kaikan took the time to recognize every new student inside the dorm and where they came from; we said 'cheers' in about 7+ different languages, based on the students and their native cheer! They even invited the cheer-squad from Musashi University to welcome us with a rehearsed cheer. It was incredibly moving to see so much effort poured out for us, and even more special to know that they were just as excited about our arrival as all us students were about arriving.



ブラジル研修生記事

幼稚園研修について

平成29年度ブラジル力行会幼稚園研修生 高垣マヤラ留美

りっこう幼稚園には5月に来ました。高垣マヤラ留美、ブラジル人の研修生です。日本に来る前にブラジルで毎週土曜日、先生の助手として子供たちに日本語を教えていました。その時は「ああ、日本語の先生になりたい」と思っていました。

研修で一年間、日本で過ごしました。最初は覚えるものがたくさんありました。でも先生方がやさしく、私にいろんなことを教えました。ももぐみとすみれぐみとゆりぐみに入って、毎週ちがうお部屋に入って。子どもたちの名前を覚えるのはたいへんだったけど、でもたくさんの子供たちとあそんだり、話したり、絵本を読んだり、折り紙をしたり、子供たちのおかげでい

ろいろ経験ができました。

お外遊びの時間が大好きな子供たちといっしょにたくさんあそびました、遊具あそび、すなあそび、すべりだい、おにごっこ、いろんな遊びをしました。今年の冬は大雪があつて、幼稚園でお外遊びの時は、子供たちといっしょに冬遊びをしました。雪だるまを作ったり、雪合戦をしたり、寒かったけど、とても楽しかったです。

子供たちの頑張っている気持ち、毎日、私に笑顔を見せてくれました。自分で頑張ろうとする気持ちは、子どもたちの特性なのかもしれません。子どもの成長を見ている感じがしました。最初はできなかったことがたくさんありました。でもいつの間

にかできるようになり、大変感動しました。

幼稚園で出会った先生方はいつも子どもたちのことを考えて、話し合いがいっぱいありました。また、たくさんイベントもありました、幼稚園の祭り、ゆりぐみのお泊まりほいく、運動会、ハロウィーン、クリスマス大会、お餅つき、音楽会、ドッジボール大会、遠足もいっぱいありました。子供たちと先生方もいっしょにその思い出を大切にしています。りっこう幼稚園のみなさんを忘れる事ができないくらい、感謝しています！

この1年間に幼稚園で研修をして、たくさんの思い出をつくりました。子供が好きだから、今後は、子供専門に日本語を教えたいので、日本語の先生になりたいです。だからもう1年、日本に残って勉強する予定です。日本語が上手になることを目標に、勉強することを頑張りたいと思います。

皆さん、はじめまして

平成30年ブラジル幼児教育研修生 藪本利恵

私の名前は藪本利恵と申します。現在26歳です。出身大学サンパウロ美術大学、工業デザイン学部です。

幼児教育系の学科とは少し離れておりますが、子供が好きなのは事実なので工業デザイナーとして大学で子供に関することは色々と検索をしておりました。

大学2年の頃に「タンポボ学園」と言う日本語とポルトガル語のバイリンガル幼稚園でアルバイトをし、そこで幼児たちとの接触をして初めて幼稚園教諭の役割の重要さを肌で感じました。半年がたち、専門学校へ通うために一度学園からでましたが、大学卒業

後もまた同じ幼稚園で先生方の助手として勤めてまいりました。

その学園では園児達とのやり取りはもちろん、幼稚園教諭にとって大切な観察力やコミュニケーション能力など、子供たちを正しく導いていくための責任感を抱え、たくさんのことを学びました。

大学卒業前にも、技術専門学校で写真学科を卒業しているので学園で、イベントが行われる時はフォトグラファーとして働かせてもらっていました。そこで私は子供たちの写真を撮るのがとても楽しいことに気づきました。特に、園児たちの笑顔です。子供

たちは私のことを知っていたため、とても素直な笑顔をくれるのです。そして彼らの成長です。写真に収めた少し前の姿と現在の姿を見比べながら成長を見るのがとても感動的なのです。

そして私はこのようにこれからも子供たちの写真を撮っていきたく、少し幼児教育を勉強したいと思っております。幼稚園教諭としてではなく、一人のフォトグラファーとしてもっと子供たちの写真を上手に撮るには知っておいたほうがいいこともあると信じております。そして日本語と日本の文化の勉強です。日本への研修はそのためでもあります。実際に日本の方々との接触でその礼儀を学び、ブラジルへ帰った後、この研修で学んだスキルや知識を実践し、共用できるような職業が見つけれたらいいなと思っております。



「移民の魁傑・星名謙一郎の生涯 —ハワイ・テキサス・ブラジル—」

飯田耕二郎 著 不二出版 発行

当会事業に度々ご支援頂き、日本移民学会中心メンバーかつ、力行会員でもある飯田耕二郎先生がこの度、永年の研究テーマであった「星名謙一郎」氏の足跡と活躍をとりまとめた本邦初の評伝が発刊され、移民研究者の間では大変好評を得ている。

日系移民初期に足跡を残し数奇な運命をたどった星野謙一郎については、特に彼の終の棲家となるブラジルの日系社会に大きな影響を及ぼしたにも拘わらず、現在ほとんど彼の功績について語られることもない為、著者がこの点に着目し、彼の足跡に関わりのあるハワイやアメリカ、そしてブラジルなど各地を訪ね、彼との親交のあった方々へのインタビューや資料収集に努めると共に、訪ねた各地の関連する建物や記念碑、さては墓碑なども詳細に巡検を重ね、当会資料も多数参考として引用され、完成、この度ついにその実態が明らかとなった。

ハワイ滞在初期には主にハワイ島ヒロ市を中心として伝道師として活躍した後、日本語新聞発行をハワイ島からオアフ島ホノルル市に活動の拠点を移動、その後結婚、子どもを授かるが不幸にして病死、その悲しみを癒

やすためではないかと、当時米作で有名となるアメリカ・テキサス州に移動し米作造りに本腰を入れようとした矢先に父親逝去の知らせを受け、全財産精算してのやむなく四国・松山に一時帰国、しかしながら一度海外生活になじんだため、閉鎖的な日本になじめず、当時、ブラジル第1回契約移民が話題となり、本人も触発され、ブラジルに向かい、米作を試みるも失敗し、やむなくサンパウロ市内に転住し、彼のその後を決定づける日本語新聞「週刊南米」を創刊、そのきっかけから二つの植民地を経営することとなるが、いろいろな反駁から、ついに1926年アルバレス・マッシュード駅で暗殺されるという数奇な運命をたどる結果となった。

星野の活躍については、それぞれの地に於ける活躍が断片的に書かれた者が多い中、今回の飯田先生の長年のご苦勞により、このように一連の時間軸と関わりを詳細に理解できるようになったことは、移民史研究の観点からは大変感謝すべきことであると共に、今後、同種の研究がますます発展することを期待してやまない、名著と言って間違いないだろう。

日本力行会機関紙「力行世界」 定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立121年を迎えました。「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生宿舍・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎え、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価格の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたいお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々へのご紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。敬具

力行会館 ゲストルーム 料金改定のお知らせ

平素は、当力行会館の運営にご支援頂きありがとうございます。

さて、昨今の諸費用価格の上昇により、当会としても維持努力の対応しております「ゲストルーム」について、平成30年4月より、下記の通り、利用料金の改定をさせて頂くこととなりました。

ご利用者様には大変ご迷惑をおかけしますが、何卒、御理解とご協力をお願い申し上げます。

また、利用時における割引についても、今後は、当会購読会員のみに適用する事となりましたので、併せて御理解下さいますよう、重ねてお願いする次第です。

施設内には、各部屋に電気湯沸器の設置などの整備等々の益々充実を図っておりますので、皆様の変わらずのご利用をお待ちしております。

(ゲストルーム利用 新料金)

シングルルーム — 1泊、税込み 5,000円

ツインルーム — 1泊、税込み 10,000円

(以上)

平成30年5月15日発行
年4回発行(1・4・7・10月号)
発行

(学法)日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp

ホームページ

<http://www.rikkokai.or.jp>